

【徳島県那賀町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 「1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の中で示されている「個別最適な学び」・「協働的な学び」を一体的に充実するため、授業・家庭学習といった学校教育の学習において、ICTが普遍的に活用されるよう取り組む必要がある。

本町では、那賀町第2次教育振興計画の基本目標の中に、「自らの学ぶ力で、新しい一歩を切り拓く～子ども×未来～」と掲げており、ICTを活用した教育を推進し、豊かな語学力、コミュニケーション能力を身に付けた、変化に柔軟に対応できるグローバル人材の育成を目指します。

2. 「GIGA第1期の総括」

平成30年度よりICT教育の構築を進め、初年度に小中学校にApple端末236台、令和2年度にはWindows端末を266台導入した。電子黒板についても初年度から継続的に導入を続けており、令和5年度は5校の小中学校に対して、25台の導入を行っている。令和4年度からICT支援員を配置し、教職員や児童生徒のサポートを行っており、さらに、令和6年度からは2名に増員し、ICT支援体制の強化を図っている。

このように、GIGAスクール構想の実現に向けて、学校のICT環境の整備を進めてきたが、端末機器・ネットワークの不具合といった課題が挙げられた。また、教職員のICTについての理解度も個人差があり、端末・電子黒板を十分活用できていないといった課題もあげられている。

不具合・故障した端末は、児童生徒の学びを止めない観点から、予備機・代替機を活用し、一人一台端末を途切れないよう管理するとともに、台数確保のため修繕を行い、ICT環境の維持をしている。また、ネットワークについても、ICT支援員が機器の調整を行うことで通信環境の改善を図り、令和7年度にはネットワークアセスメントを実施することで、安定した通信環境を目指していく。

3. 「1人1台端末の利活用方策」

① 「1人1台端末の積極的活用」

教育支援アプリや、デジタル教科書を用いて、児童・生徒の授業の学習意欲を高め、積

極的に端末の活用を推進していく。教職員に対しても授業での端末活用を増やすため、ICT支援員2名がそれぞれハード面、ソフト面を専門としてサポートを継続していく。

② 「個別最適・協同的な学びの充実」

タブレット端末の活用により、児童・生徒の学習の進捗状況や理解度を個別に把握し、個人の能力を十分に発揮できるよう一人一台端末を活用する。また、学習用アプリを活用し自身の考えだけでなく、他者の考えに触れることで協同的な学びを深めていく。

③ 「学びの保障」

一人一台端末を維持するため、端末が故障・不具合を起こした場合に備えて、予備機の運用を可能とし、学習の機会が失われない体制を整える。また、本町では長期休暇等においてタブレット端末の家庭学習を行っており、不登校、体調不良等で授業に参加することが出来ない児童・生徒についても、タブレット端末を利活用することで学びの保障ができる環境を整備していきます。